



平成 28 年度 (第 70 回)

芭蕉祭

俳聖松尾芭蕉の偉業を称え遺徳を偲ぶ「平成 28 年度 (第 70 回) 芭蕉祭」が、10 月 12 日(水)、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献茶・献花・献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で式典を開催しました。式典は「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などを行いました。

各部門の特選句と、一般の部で入選した市内の皆さんの句を紹介します。

【応募数】 一般の部…9,058 句

テーマの部…1,841 句

児童・生徒の部…25,192 句

英語俳句の部…27 カ国から 1,061 句

連句の部…143 巻

絵手紙の部…787 枚 ポスター原画の部…489 枚

【問い合わせ】

文化交流課 ☎22・9621 FAX 22・9694

一般の部 特選

▼有馬朗人 選

臍へその緒の箱のころさや初しぐれ
紅鮭へその紅濃し雪の市始

練馬区 淵田芥門
秩父市 須田真弓

▼稲畑汀子 選

人生の旅は片道翁の忌
忙しさは生きる証や汗もまた

横浜市 松永朔風
伊賀市 北村みち

▼茨木和生 選

万緑や万葉仮名の停留所
美濃近江隔つる小溝露涼し

多摩市 田中久幸
奈良市 渡辺政子

▼宇多喜代子 選

先生に椅子用意して遠花火
注連繩しめなわの一巻き辻の大榎おんのかき

松山市 大久保文子
青梅市 津布久信雄

▼小澤貫 選

日盛りに鉄のほひや貨車通る
初粟を山盛りにして祠ほらかな

日野市 大野善雄
安曇野市 鈴木尚子

▼鍵和田柚子 選

被災せる母なる川に帰る鮭
雲くもに樹きに遠き海鳴り翁の忌

仙台市 小島左京
中野区 伊藤亜無

▼金子兜太 選

「骸」とは「核」と同義語原爆忌
父の日や九十一で女好き

函館市 武田悟
杉並区 岡崎志昂

▼黒田杏子 選

芭蕉忌の北は風花舞ふばかり
伊勢海老を包む漁師よ檻ぼろ襖ぼろ揚げ

富良野市 山東爺
志摩市 中條かつみ

▼坂口緑志 選

棕櫚しゅうろの花芭蕉の句碑へ日を零す
外套がひや乱歩の鼓動今もあり

岡崎市 小貫あかね
名張市 森岡秀美

▼塩田敦柑子 選

菊月に入りて就活焦る日日ひび
熱戦の球児織りなす夏ドラマ

伊賀市 船見ふみへ
吹田市 有本美智女

▼棚山波朗 選

一山を越ゆれば近江翁の忌
波際にますほの小貝涼新た

名張市 森川和
小牧市 藤島咲子

▼西村和子 選

東の間の日差しを弾き冬木の芽
タバコの火一つ水番の声二人

室蘭市 大館美千代
総社市 尾関華陽

▼長谷川權 選

梅漬けて主婦の一生全うす
生きてゐる限り未完と生身魂いみみなま

東海市 斉藤浩美
大阪市 田島もり

▼星野椿 選

御句碑に流るゝ月日立子の忌
舟渡御や比叡の僧も乗り込みて

ブラジル 二見智佐子
名古屋市 黒野涼子

▼正木ゆう子 選

桃の皮引いて地球に夜と昼
雲海を渡れば近し八ヶ岳

苫小牧市 齊藤まさし
小金井市 高橋広子

▼三村純也 選

見えてゐる滝とは別の滝ひびく
清水一掬山頂へあと少し

尾鷲市 岡村紀洋
神戸市 山内茉莉

▼宮田正和 選

幹叩き花のこゑ聞く桜守
若葉風乳の張りたる山羊二頭

伊賀市 浜地和恵
伊賀市 橋本秀子

英語俳句の部 特選

▶加藤耕子 選(訳)

foggy morning
the distant tapping
of a woodpecker (啄木鳥の遠き笈や霧の朝)
Barbara A. Taylor (バーバラ・A・テイラー) / オーストラリア

between two bridges-
stretched out on the river
the full moon (満月や川に渡せる橋ふたつ)
Janet Howie (ジャネット・ホウイ) / オーストラリア



連句 特選

▼青木秀樹 今村苗 東條士郎 西田青沙 共選(五十音順)

※半歌仙『魚の目は泪』の巻 神奈川県 増井 ちえこ 捌
行く春や鳥啼き魚の目は泪

芭蕉翁

八重山吹きの咲き染める路

前田明水

永き日を新進画家はベレーにて

飯田せつ子

サンドイツチに辛子たつぷり

増井ちえこ

木の間よりもる月影の陶の町

せつ子

回覧板は赤い羽根付き

博山

温室の外に横たう捨て案山子

せつ子

おそろおそるとシニア婚活

博山

猫被り年も鯖読む丙午

せつ子

急な呼び出しスツピンのまま

明水

年の暮今年も同じ独り酒

せつ子

聖母観音夢に現れ

ちえこ

夏の月調べはバツハカンタータ

明水

セレブ所有のヨットひしめく

博山

お白洲にさらされる前議員辞め

明水

若手に老舗託す麗日

博山

予後も良し窓に明るき花吹雪

せつ子

鎮守の森に放つ蝶々

明水

平成二十八年四月二十四日 満尾

伊勢原シテイプラザ



テーマの部 特選

テーマ:『霧』

▼片山由美子 選

忽ちに霧の中なる霧ヶ峰
川霧や明日も使ふ鍬洗ふ

岡崎市 伊藤悦子
東海市 加藤久子

絵手紙 特選

伊賀市 梅田徹



ポスター原画 特選

阿山小学校4年 吉岡海成



お知らせ拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など

〔保育園(所)・幼稚園・小学校一〜三年〕

▼下村哲朗・土井陽代・浜地和恵・藤井充子・山村勝子 共選 (五十音順)

ひやけてはパパがいちばんまつくろけ
あせかいてははしてははしておにごっこ
ふわふわのべにばなトゲがまもってる
けんどうぎあせでおもたいかえりみち
あかしんごうははのひがさにかけこんだ
すいかわりきこえてくるよなみのおと
せみのこえがくふにするとむずかしい
えんてんかになじやでんしゃが音たてて
ざぜんくみたたかれないたいあせのかた
古びわ湖のれきしを知った夏休み
せみの声一つちがってまたちがう
雨上がり虹のゴールにシュートする

曙保育園 西尾希望
白鳳幼稚園 中井蒼彩
長田保育園 中村梨聖
府中小学校一年 みやもとなる
上野西小学校一年 かたやまれん
友生小学校一年 もりもとゆうた
上野東小学校二年 あべあかね
上野西小学校二年 花たにかの
長田小学校二年 市南らいと
依那古小学校三年 森永隆太
上野西小学校三年 藤森啓佑
友生小学校三年 中森悠人

〔小学校四〜六年〕

▼喜多富美・坂石佳音・永井みよ・東構東子・福山良子 共選 (五十音順)

稲の花が開くころ十才に
夏の風ほしてるズボンシャツをける
絵手紙にそ母にもらったトマトの絵
五年生たった六人メダカ飼う

鈴鹿市立栄小学校四年 長岡穂華
三重大学教育学部附属小学校四年 宮口真緒
中瀬小学校四年 東本一希
神戸小学校五年 福壽悠仁



初めての委員かいかつ動春の風
ツバメの巣6羽のひなのハーモニ
大海をうき輪の中で一人じめ
オカリナのドレとミとファ春近し
念入りに産卵の場所探すチヨウ

高岡市立伏木小学校五年 清水愛菜
掛川市立第一小学校五年 三村愛莉
青山小学校六年 中西愛梨
足立区立中川北小学校六年 福田唯花
成和東小学校六年 竹永早那

〔中学校・高等学校〕

▼北村保・北村みち・佐々木経子・西村八洲子・松本ちい 共選 (五十音順)

夏の富士かくす雲まで日本一
参道の一步に青いつばきの実
摘みたてのお茶の葉かおる家の中
暑い夏金賞めざす吹奏楽
姉二人ショートカットの夏休み
夏服にそでを通せば青い風
白球の入道雲を貫いて
緑陰が囲む僕らの秘密基地
東雲に浮かぶ月見る窓の外
果てしなく続く稲田や始発駅
陽炎のゆらめく白線踏みにけり

崇広中学校一年 濱田和馬
靈峰中学校一年 城昂平
福岡県立門司学園中学校一年 若林春菜
緑ヶ丘中学校二年 兼本実幸
城東中学校二年 永山元康
宇陀市立室生中学校二年 西川真央
上野南中学校三年 吉村祐紀
福岡県立門司学園中学校三年 村上萌
糸島市立前原西中学校三年 宮地若菜
三重県立上野高等学校一年 上窪成紗
愛知県立安城高校二年 塚下二千菜

一般の部 入選

※伊賀市在住の人のみ掲載しています。

▼有馬朗人 選

菊脍青き淡海を目の下に
川岸を母子が歩く梅若忌

石原京子
福沢義男

▼稲畑汀子 選

一行の揃うてよりの旅涼し
帰省子に言ひそびれたる事のあり
音のなき蛩の乱舞見て飽かず
万緑の底の底なる通過駅

藤井充子
松井和子
子日康子
西澤与志子

船あそび大揺れの身の置きどころ
鈍らせてならぬ感性ホ句の秋

山村勝子
西田扇女

奥深く来過ぎ万緑おそろしく

光岡代里子

▼茨木和生 選

盆栽の松のみどりも遺品なる

福山良子

▼小澤實 選

盆近し伊賀線鉄路草を刈る

川口登子

▼鍵和田袖子 選

束ねある妣の句帳やはたがみ

服部和子

▼金子兜太 選

天皇の後ろ姿や蝉しぐれ

中嶋國博

▼黒田杏子 選

露涼し巨泉六輔連れ発ちぬ

山村俊夫

▼坂口緑志 選

夏書して墨の匂へる夕べかな
敢国の森子別れの鴉鳴く
子育ての罅穴ある神の射塚
鳳凰の隅蓋濡らす青しぐれ
蜻蛉生まる鑑真廟へ翅ひろげ
ひまはりの種干し四鮎鷲ぐ
蓑虫庵蚊除けの団扇もらひけり
緑雨濃き釣月軒に単座せり
田仕舞の煙の中に六地藏

向井弘子
川口幸子
西田尚子
永井みよ
土井陽代
谷本まさ子
和田美代子
原禮子
古賀町子

▼塩田菫柑子 選

新涼にハミング洩れる厨窓
父の日の静かに過ぐる母子家庭
婚約の整う部屋にメロンの香
路線備に縁無き暮らし麦の秋
日盛りに放置自転車熱を吐く

山本松柏
中西紀歩
山添桜花
葛原恵子
山下多恵子

▼棚山波朗 選

夫眠る墓の裾まで青田風
塩袋牛舎にどかと夏に入る
繭おどる二十五本の糸の縊り
門川の水やや濁る半夏生
山藤にみちびかれ行く阿波の寺
退き際のすがしき人や桐の花
さぶさぶと使ふ井戸水夏来る
梅雨晴れ間鉢の目高の浮いてくる

山本香苗
米野てるみ
箱林のぶ子
中島邦子
池村悦子
松尾紀子
松尾紀子
和田柏忠

▼西村和子 選

草茂る廃校の名も忘れられ
やうやくに風を捉へし巢立鳥
梅雨長し飾り香炉に香を焚き
桜咲くうんと学べよ一年生

山森義祥
米野てるみ
土井陽代
辻孝男

▼長谷川權 選

兄弟の待つ山開海開
旅うらら乗り放題の切符手に
千梅のざるに残りし色と香と
和筆筒の観音開き更衣
母の日の糸で切りたるゆでたまご
合掌のどの家も同じ雪囲い
烏瓜花へ案内の灯を上げて
使ふこと稀なる硯洗ひけり
京町家外玄関に鉾粽

森中幸枝
前出美千子
橋本良子
内田育子
森本文子
瀧野政信
藤井充子
北村みち
福森志津子

▼星野椿 選

先の世を案じつつ引く夏の草
屏越しの南瓜にほうき取られけり

福森千恵子
権蛇邦子

▼正木ゆう子 選

その足で先づ母校へと帰省の子
農小屋の分も作りぬ注連飾り
釣月軒窓に玉解く芭蕉かな
止めやうかもう止めやうか草を取る

森中幸枝
和田美美
森中幸枝
子日康子

▼宮田正和 選

見つむ間のふつと無言や庭火花
城ひとつと忽と消し去る大夕立
廃校に咲き継ぐ桜見頃とや
水韻く方へ方へと夏の蝶
初挽ぎの江戸紫の茄子二つ
荒磯の波も波間も大夕焼
雨粒の当たれば弾く水馬
軒低き城下一閃つばくらめ
子が駆けて闇に溶け入る蛩狩
遠山に雲の湧きつぐ今朝の秋
赤き実海桐と指せり招魂社
海霧流るプラットホームだけの駅
結界へつづく坂道霧しぐれ
霧深しここは難所の峠越

小倉秋子
服部登紀子
稲森すま子
米野てるみ
桑原智代美
森永康子
箱林のぶ子
中嶋國博
中出泰衣
山下久美
中西澄子

▼三村純也 選

霧深しここは難所の峠越

前出美千子
中嶋國博
中島邦子
西澤与志子
中島邦子



お知らせ拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など